

総合計画審議会は、1月22日に新しい基本計画の答申を行いました。
計画を審議してきた審議会委員の竹川氏に、
これからのまちづくりに期待することなどを伺います。

一般社団法人
IMPACT
Foundation
Japan 代表理事
竹川 隆司 さん



プロフィール

民間企業にて金融分野の経験を積んだ後、日本とアメリカで
起業。仙台ではINTILAQ東北イノベーションセンターを拠点
に、社会起業家の育成・支援に取り組んでいる

Q 起業の場としての
仙台の強みは？

A 起業家が育つ土壌として、
人と環境の2つが重要だと
考えています。その上で仙台・東北
の一番の強みだと言えるのが、東
日本大震災後のマインドセット(思
考態度)です。震災によって人生観
や価値観が変化し、社会や地域の
ために何かしたい人が増えたとい
うデータも出ています。起業の動機
が明確であれば、環境が変わっても
負けませんし、問題の解決策を講
じることもできます。

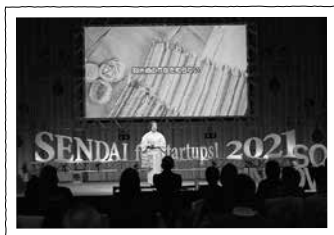
また東北は復興に向けた課題に
加えて、少子高齢化や人口減少な
どの社会問題も深刻です。課題が
あふれているということは、起業家
にとってはチャンスが多い場所。し
かも仙台は、東京から新幹線でわ

ずか1時間半の、いわば「通勤圏
内」です。この好ロケーションは、起
業家が仙台から日本中、世界中へ
とつながっていく上で、大きな強み
になるのではないかと思います。

Q 社会課題の解決に向けて
私たちができることは？

A 課題解決と言うと、難しい
話のように思われがちです
が、実は皆さんにとって身近なこ
と。隣に困った人がいれば、そこに
課題があります。その人を笑顔に
することが、ソーシャル・イノベー
ション(社会変革)の始まりです。
例えば「自分の息子がいじめにあっ
た」、「親の介護が不安だ」、「近く
の川が汚れていて困る」など、起業
家の多くが他者や環境との関わり
の中で課題を見つけています。
そんな周りの困りごとを見て
見ぬふりをせずに、勇気を持
って一歩踏み出すことが大
切です。

また社会課題に目を向



▲市では、起業家のチャレンジを応援する
イベントを開催するなど、起業家が育つ土
壌づくりを進めています

創業支援

本市は、企業の支社や支店が集中する支店経
済を基盤に発展してきました。市内の民営事業
所における支社・支店等の占める割合は43パー
セントと、20政令指定都市の中で最も高い割合
となっています。

一方で、本市の新規開業率は政令指定都市
の中で福岡市に次いで第2位となっており、起業
家がチャレンジしやすい環境でもあるといえま
す。起業支援センター「アシ☆スタ」の開設に
よる相談体制の強化や起業家応援イベントの開
催、仙台・東北からスタートアップ企業を連続
的に生み出す「スタートアップ・
エコシステム」の形成の推進など、起業を通じ
て地域経済の活性化や社会課題
の解決を促進し
ていきます。



▲「アシ☆スタ」では、起業家や起業した
い方向けのセミナーの開催・相談対応など、
起業をサポートする取り組みを行っています

ける一方で、この土地ならではの
「宝物」にも気付いてほしいと願っ
ています。仙台・東北には豊かな風
土とフード(食べ物や飲み物)、人
の温かさやビジネスポテンシャル
(起業など経済活動の可能性)な
ど、たくさん魅力があります。そ
の宝物を課題解決に生かしてほし
いですし、外へ発信していくマイ
ンでも大事だと思っています。

Q 「The Greenest
City」に込めた思い
は？

A 新しい仙台市基本計画に
は、目指す都市の姿として
「The Greenest City」
「SEND A」を掲げています。私
がこのビジョンを提案した理由は、

他の都市にはない仙台式さを明
確にしたいと考えたからです。「G
reen」という言葉は「自然」や「心
地よさ」などをイメージさせるは
か、「Green Light」なら青
信号で進め、「Green Goods」
で新鮮な野菜や果実を意味する
など、チャレンジしやすい環境や食
文化が豊かな仙台の個性にもつな
がります。さらに最上級を表す「G
reenest」とすることで、世界
を見据えた杜の都の方向性を示
しました。

まちづくりや課題解決には、判
断軸が必要です。「これはグリーネ
ストだから」と行動する人が増え
れば、世界に誇れる仙台へと、皆で
発展させることができると信じて
います。